

熊本高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	経済学
科目基礎情報						
科目番号	LK1404		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報通信エレクトロニクス工学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	1		
教科書/教材	授業に関連した資料を配布する。参考書：日高晋『経済原論』(有斐閣選書)					
担当教員	時松 雅史					
到達目標						
経済学の歴史や基礎的な理論を説明できる。授業の後半では、日本経済の発達について、その要因や変化について説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
経済学の分類と古典派経済学	経済学の変遷について、学者名や著書名を挙げながら説明できる。またケネーやリカードの理論について説明できる。		経済学の変遷について、概略を端的に説明できる。またケネーやリカードの理論について端的に説明できる。		経済学の変遷について、概略を端的に説明できない。またケネーやリカードの理論について端的に説明できない。	
マルクス経済学及び株式会社ほか	マルクス経済学の基礎となる商品・貨幣・資本について説明できる。また株式会社と株式について基礎的な用語を用いて説明できる。		マルクス経済学の基礎となる商品・貨幣・資本について端的に説明できる。また株式について基礎的な用語を用いて説明できる。		マルクス経済学の基礎となる商品・貨幣・資本について端的に説明できない。また株式について基礎的な用語を用いて説明できない。	
マルクス経済学とケインズ経済学	マルクス経済学の生産論・分配論について専門用語を用いて説明できる。ケインズの有効需要理論等について説明できる。		マルクス経済学の生産論・分配論について概略を端的に説明できる。ケインズの有効需要理論等について概略を説明できる。		マルクス経済学の生産論・分配論について概略を端的に説明できない。ケインズの有効需要理論等について概略を説明できない。	
戦後の日本経済・先物取引・金利計算	戦後の日本経済について、キーワードを用いて、その流れを説明できる。また先物取引のなりたちと仕組みについて説明できる。金利計算は複利とローン計算ができる。		戦後の日本経済について、キーワードを用いて、その流れを端的に説明できる。また先物取引のなりたちについて説明できる。金利計算は複利計算ができる。		戦後の日本経済について、キーワードを用いて、その流れを端的に説明できない。また先物取引のなりたちについて説明できない。金利計算は複利計算ができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	本科目は、アダムスミスやリカードをはじめとする古典派経済学からマルクス経済学、さらにケインズやフリードマンの理論を中心に学習する。後半は日本の経済の発達について、戦後の復興期から高度成長・安定成長期を学習する。また地元熊本の経済についても触れながら学習する。					
授業の進め方・方法	授業は座学形式で行い、必要に応じて資料を配布しながら進める。資料は学生に輪読してもらう場合がある。					
注意点	私語は慎み、授業に積極的に参加すること。質問も大歓迎です。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス・経済学とは 1		経済学の分類について説明できる。	
		2週	経済学とは 2		同上	
		3週	古典派経済学 1		スミスの基本的な理論を説明できる。	
		4週	古典派経済学 2		リカードの基本的な理論を説明できる。	
		5週	重農学派の経済学		ケネーの経済表について説明できる。	
		6週	マルクス経済学 1		商品と貨幣について説明できる	
		7週	マルクス経済学 2		貨幣の理論について説明できる	
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	答案返却 マルクス経済学 3		貨幣の発達史について概略を説明できる	
		10週	マルクス経済学 4		資本について説明できる	
		11週	株式と株式会社について 1		株式とその売買について説明できる	
		12週	株式と株式会社について 2		株式の保有状況と株価の決定要因について説明できる	
		13週	株式と株式会社について 3		株式の売買シミュレーションを通して、株式相場の流れを理解できる	
		14週	マルクス経済学 5		剰余価値の生産について説明できる	
		15週	マルクス経済学 6		拡大再生産について説明できる	
		16週	定期試験の答案解説		到達目標について確認できる	
後期	3rdQ	1週	マルクス経済学 7		利潤の分配について説明できる	
		2週	ケインズ経済学 1		有効需要の理論について説明できる	
		3週	ケインズ経済学 2		乗数理論について説明できる	
		4週	ケインズ経済学 3		IS・LM曲線について説明できる	
		5週	新古典派の理論		フリードマンの自然失業率仮説について説明できる	
		6週	経済学の基礎理論 1		機会費用について説明できる。	
		7週	経済学の基礎理論 2		価格弾力性について説明できる	
		8週	中間試験			
	4thQ	9週	答案返却・戦後の復興期		GHQによる民主化について説明できる	
		10週	高度成長期 1		昭和30年代からオイルショックまでの大きな流れを説明できる	
		11週	高度成長期 2		成長の要因と工場立地の特徴について説明できる	

		12週	安定成長期 1	オイルショック以降から平成にかけての大きな流れを説明できる
		13週	安定成長期 2	産業構造の転換と工場立地の変化について説明できる
		14週	先物取引について	先物取引の成り立ちと仕組みについて説明できる
		15週	金利計算について	複利計算とローン計算ができる
		16週	答案返却	到達目標について確認できる

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	前11,前12,前13,後15

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	60
専門的能力	40	0	0	0	0	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0